

年 組 名前:

甲府市と県立中央病院 ドクターヘリで協定

強風時、防災拠点に着陸

下飯田 搬送時間10分短縮



協定書を掲げる中込博院長(左)と樋口雄一市長

甲府市と県立中央病院は、「県ドクターヘリ緊急離着陸場に関する協定」を締結した。強風などで病院のヘリポートが使用できない場合に、市の下飯田防災拠点に着陸することで搬送時間を短縮し、傷病者の救命率向上を図る。  
 (山本久美子)

病院によると、これまで強風に着陸。救急車で病院に搬送するのに約15分のロスがあった。病院から約1キロの距離にある下飯田1丁目の防災拠点

点を使用することで搬送時間を10分短縮でき、早期治療が始められるという。

市防災企画課によると、防災拠点は約6082平方メートル。大規模災害時の支援物資やがれきの収集場所、応急仮設住宅の建設地として市が所有している。

22日、市役所で締結式が行われ、樋口雄一市長と県立中央病院の中込博院長が協定書に署名した。樋口市長は「県の医療体制強化に協力でき喜ばしい。災害時の適切な医療体制確保にも有益だ」とあいさつ。中込院長は「防災拠点の使用を認めていただき市と近隣住民に感謝する。協定により救命できる患者が一人でも増えることを願う」と述べた。

県ドクターヘリは2012

(2023年2月26日付 山梨日日新聞 20面)

年に運航を開始。県内各地の救急現場に約15分で到着でき、救命救急に貢献してきた。年間約400回出動し、2021年度末までに4740件の搬送を行っている。

問1

甲府市と県立中央病院が締結した協定名を教えてください。

.....

問2

その協定の内容を説明してください。

.....

.....

問3

協定を締結したことで、樋口市長は何と話していますか。

.....

.....